

## 令和5年度地域活性化活動助成事業（周南市立三丘小学校）活動概要

1 活動名 地域の達人から学ぼう

2 連携団体 周南市立三丘小学校学校運営協議会 等

3 経緯

本校のある三丘地区には、安田糸操り人形芝居や孔子廟のある徳修館、学校田、なす畑、麦畑などがあり、教育環境にとっても恵まれている。これまで毎年地域の方をその道の達人として講師に招き、学年や全校でふるさと体験学習を継続してきている。

本年度から、近隣の保育園児や老人福祉施設のお年寄りが活動に参加して交流したり、コロナ禍で中止していた餅つきを再開して地域の方との交流をより一層深めたりすることができると期待している。

4 実施内容

### 1・2年生 さつまいもの苗植え・収穫

地域の農業構造改善組合のご指導により、近隣の保育園児と一緒にさつまいもの苗植えや収穫を体験した。



### 1・2年生 麦の収穫・ピザづくり・麦の種まき

学校運営協議会会長のご指導により、春に麦の収穫を行い、夏にピザづくり、冬に麦の種まき・麦ふみを体験した。



### 3・4年生 なすの苗植え・収穫

地域のなす名人のご指導により、なすの苗植え、支柱たて、収穫を体験し、子どもたちは責任をもって毎日の水の管理を行った。また、白なすづくりに挑戦したり、収穫したなすを使ったジャムづくりや料理に挑戦したりした。さらに、なす栽培の記録を家庭や地域に発信し、なすを販売したり、熊毛地域の給食の食材として提供したりした。



### 5・6年生 安田糸操り人形芝居

安田糸操り人形芝居保存会のご指導により、「みつおっ子フェスタ（学習発表会）」で下学年や家族に、「徳修館まつり（地域の文化祭）」で地域住民に、「山口県へき地・複式教育研究大会」で県内の教員へ披露した。また、5年児童は、国語科の学習「和の文化を受けつぐ」において、「安田の糸操り人形芝居」の魅力を下学年や家族、地域の方に伝えるために調べたりまとめたりする学習を行った。この活動を通して、改めてその歴史や魅力について詳しく知り、保存会の皆さんの思いや願いを感じながら演奏や表現に生かすことができた。



### 5・6年生 防災学習

ほっと三丘コミュニティ会長と防災士の方にご指導いただき、今年度は、オリジナル防災バッグを作ることをゴールに設定し、避難時に必要な防災グッズや防災食を考えたり選んだりしながら防災について学んだ。来年度は、災害発生の仕組みを学び、自分の命は自分で守る力を身につける。



### 5・6年生 論語朗誦 釈菜

毎日、全校で月ごとの論語を朗誦したり、素読資料集を使って学年ごとに紹介されている先人の言葉を暗記し朗誦したりしている。1, 2年生は、「みつおっ子フェスタ（学習発表会）」で、暗記した論語を上級生や家族に発表した。また、徳修館釈菜の前に顕彰保存会会長にご指導いただき、当日、三丘小論語朗誦隊として披露することができた。



### 全校児童 田植え・稲刈り・餅つき

地域の農業構造改善組合のご指導により、全校児童と地域の保育園児とで田植えや稲刈りを体験した。また、収穫した餅米を使って、久しぶりに臼と杵で餅つきを行うことができた。そして、持久走大会の日には、そのお餅が入ったぜんざいを地域の方が作ってくださった。



### 全校児童 ドラム・サークル

パーカッションを使った人間関係づくり「ドラム・サークル」は、全校児童で取り組み始めて今年で6年目となり、ファシリテーターの皆さんも子どもたちの成長に驚かれています。また、地域の方と交流のできる場として、老人福祉施設にも声をかけています。



## 5 今後の課題

コロナ後の今年度は、子どもたちのために活動ができることを待ちに待っていた地域の方の思いが、どの活動にもあふれていた。そして、その思いをしっかりと感じながら、全力で取り組む子どもたちの姿が、また地域の方の大きな喜びになっていた。

5年ぶりに行った餅つきでは、計画当初は、以前指導してくださった方が高齢となり実施が難しい状況であった。しかし、すぐに「ほっと三丘コミュニティ」と市民センターが動いて、民生委員・児童委員、食生活推進協議会、母親クラブ、三丘小PTAのOBの方たちが集まってくださった。そして、当日は現役のPTAも加わって盛大に餅つきをすることができ、三丘の地域力のすばらしさを改めて実感した。

もちろん、子どもたちは、毎年楽しみにしている行事や、「高学年になったらできる」とあこがれを抱いていた活動に積極的に取り組んだ。そして、担任が、子どもたちが主体的に追求できる課題を設定したり、活動を仕組んだり、教科と関連付けて取り組めるように発展させたりしながら、子どもたちに様々な力が身に付けられるように工夫した。

来年度から本校は、周南市小規模特認校として市内から通学可能な学校となる。特認児童には、これらの体験学習を通して、三丘地域への理解を深めながら確かな力を身に付けるとともに、第2のふるさと三丘に誇りをもち、居住地域に目を向けてほしいと思う。その一方で、学校、家庭、地域が一丸となった三丘ふるさと体験学習が、保護者にとっての魅力となり移住促進につながることも期待している。

毎年こうしてたくさんの方の力をお借りして、充実した活動を行うことができている。今後も、これらの活動が、「地域とともに笑顔いっぱい、楽しさいっぱい、夢いっぱいの学校づくり」の柱として持続可能であるために、教育課程の位置づけを明確にし、振り返りを確実にいながら改善を重ねていくことが大切だと考える。